

2. 新生物 (C509 乳がん患者のテロメアの長さ)

文献

Carlson LE, et al. Mindfulness-Based Cancer Recovery and Supportive-Expressive Therapy Maintain Telomere Length Relative to Controls in Distressed Breast Cancer Survivors. *Cancer*. 2015 Feb 1;121(3):476-84. PubMed ID:25367403

1. 目的

苦しんでいる乳がん生存者において、1)マインドフルネスがん回復プログラムと支持的表現的集団療法という二つの社会心理的介入の TL(テロメアの長さ)に及ぼす効果をコントロール群と比較する。2) TL の変化とストレスや気分の変化の関連を調べる。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験(RCT)

3. セッティング

記載なし。ただしカルガリー、アルバータ、バンクーバー、ブリティッシュコロンビア地区。

4. 参加者

少なくとも3カ月前に、ホルモンあるいはトラツマブ療法を除く全ての治療を終了した、ステージI~IIIと診断された、明らかに苦しんでいる乳癌生存者。

5. 介入

Arm1(介入群):Mindfulness-based cancer recovery (MBCR)群 53人: 90分のグループセッションを週1回8週間と6週目と7週目の間に6時間のリトリートに参加。瞑想とマインドフルネスムーブメントをテキストとCDを使って家で練習。

Arm2(介入群):Supportive-expressive group therapy(SET)群 49人:90分のグループセッションを週一回12週間。感情表出と集団支援を強調。

Arm3(コントロール群):対照群 26人:6時間のストレスマネジメントセミナーを1回受講。

6. 主なアウトカム評価指数

主要評価項目: TL、The Telomere/single-copy gene ratio (T/S ratio)、

副次評価項目: The profile of Mood States(POMS, 気分)、The Symptoms of Stress Inventory(SOS, ストレス)、The Calgary SOSI(C-SOSI, ストレス)、介入前と介入3ヶ月後。

7. 主な結果

T/S ratio の変化: MBCR と SET 群の間に有意な差はなかった。ただし、介入群 (MBCR と SET 群を足した群) とコントロール群の間には異なる傾向が見られた。介入群 (MBCR と SET 群を足した群) では TL を維持したのに対して、コントロール群では低下した。

相関: TL の変化と POMS (気分) あるいは C-SOSI (ストレス) 得点の変化の間には相関はみられなかった。

8. 結論

心理社会的介入群ではコントロール群に比べて、苦しんでいる乳がん患者の TL を維持する傾向が見られた。

9. 安全性に関する言及

記載なし。

10. ドロップアウト率とドロップアウト群の特徴

MBCR 群 53人中17人ドロップアウト SET 群 49人中13人ドロップアウト

コントロール群 26人中6人ドロップアウト

ドロップアウトの特徴: 介入群、コントロール群共に、全てのクラスを終了できなかった。

11. ヨガの詳細

MBCR:マインドフルネス瞑想とおだやかなハタヨガ。

12. Abstractor のコメント

筆者らは TL が乳がん患者において早期死亡の予測因子になること、TL はストレスの影響を受けることを背景として、本研究に着手した。が MBCR が TL に影響を及ぼすと言う結果は得られなかった。ただし、MBCR と SET は治療法として共通する因子があることより、両群をまとめて検討するとコントロール群との間に差がある傾向を認めている。介入期間が3ヶ月と短いため、長期的な影響に関する研究が求められる。

13. Abstractor の推奨度

苦しんでいる乳癌生存者のテロメア長維持のために MBCR は有効かもしれない。

14. Abstractor and Data

平澤 昌子 岡 孝和 2015.8.29